

イエスはまなり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 183号

「愛情の絆と愛の手を」

(マルコの福音書 2:1 ~ 12)

植草 榮一



イエスがカペナウムに戻って来られると、それを知って多くの人が集まって来ました。人々はイエスの奇跡を知って、その噂で集まってきたのです。そこに中風の人を四人の男が運んで来ました。彼らはきっとイエスなら、この中風をいやして貰えると思ったのです。しかし、大勢の人たちでこの家には入ることが出来ません。困った四人は、屋根に登り、イエスの語っておられる当たりの屋根をはがして穴をあけ、病人を床ごと吊り下ろします。この四人は常識外れのことをしました。叱られるのを承知して。きっとイエスを始め、そこに居た人々の上に、土壁の埃などが落ちてきたことでしょう。四人の男の手によって、中風の者を床ごとイエスの目の前に吊り下ろす、この行為は余程の勇気と愛情がなければ出来ないことです。イエスはその人たちの信仰を見て「あなたの罪は赦された」と言われます。イエスに対する絶対的な信頼と信仰がなければ、こんな無謀とも言える行為はできません。屋根をはがしてまで、中風の病人をいやして貰おうとした友情は、聖書の中だけの出来事でしょうか。ここからイエスと律法学者たちとの心の中の考への違い、神の領域を犯す者としてしか見えない者たちとの戦いが始まります。聖書はイエスを罪を赦す権威と病をいやす行為にも触れています。この時代も旧約の昔から、病は罪の結果として起こると信じられて来ました。この律法学者との論争は、神の領域を侵す者として、イエスを心の中で非難しているが、「罪を赦す」と言うことは言葉の上で、目には見えません。しかし、「病いをいやす」と言うことは、目に見えることです。イエスは律法学者に向かって、「あなたは罪は赦された」と言うのと同時に人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう」と言い、中風の人に「床を担いで家に帰りなさい」と言われました。決して再度「罪が赦された」とは言われませんでした。人々は皆、驚いて神を賛美しました。

東日本大震災から丁度五年が経ちました。まだまだ復興は進んでいません。当時良く言われた言葉に「絆」と言う文字がありました。当初は被災地の人々に対して、強い同情心からボランティア活動などして来ました。しかし今、私たちの気持ちも薄らいで来ています。もう一度、あの中風の人を助けた四人の様に、同情ではなく、愛を持って「絆」を大切にしたいと願っています。

(習志野アーケ 福音ミニストリー牧師)

霊 想



「実にキリストは

よみがえられた」

一 コリント一五・一―一

更生教会 山口 紀子

「わたしが最も大事なこととしてあなたがたに伝えたのは、わたし自身も受けたこと」だとパウロが語った事、それは福音の核心である十字架と復活でした。その要点は一・キリストが聖書に書いてあるとおり、わたしたちの罪のために死んだ事。

二・埋葬された事。

三・聖書に書いてあるとおり、3日目に甦った事。

四・ケバ、ヤコブ、使徒たち、兄弟たち、そしてパウロにも現れた事です。

ところで主イエスの復活は実際のところ、あなたにとってどんな意味をもっているでしょうか。知識としては知っているけれど、どこか現実味が無いという事はないでしょうか。

か。

「実にキリストはよみがえられた」。それは、主が今ここに生きておられる。信じる者のうちに住んで下さる。この事を意味するのです。

それはとりもなおさず、この方と出会い、共に生きる事が許されているという事です。それが四つ目の「復活のキリストが現れた」という出来事です。

「現れ」という言葉が短い節に6回も繰り返されています。この言葉は「肉眼で見られた」「リアルに見える顕現」という意味です。パウロはここにケバから始まり6種類の人をあげて、復活の主が彼らと出会った事を強調しています。

あなたは復活の主と出会ったか？それが肝心なのです。ここに出ているのはケバ(ペテロ)、十二弟子、五百人以上の兄弟たち、ヤコブ、ヤコブとは、主イエスの兄弟ヤコブの事だと言われます。復活以前彼は、兄であるイエスがキリストだとは信じられず否定していました。

気がふれたと思われ、連れ戻そうとした事もありました。不信仰だったのです。ところがこのヤコブがエルサレム教会の中心人物となっていく。なぜ彼は変わったのか。復活の主イエスに出会ったからです。

それからすべての使徒たち、そしてパウロ。彼は神への熱心ゆえ

に、キリスト者を迫害していた者です。その彼に復活の主イエスが現れて下さった。彼はとらえられました。

それぞれが暗闇の中に閉じ込められていたのです。ペテロは挫折と暗闇に。エマオ途上の弟子たちは絶望、恐れ、ヤコブは不信仰、パウロは間違った熱心。しかし、復活の主イエスとの出会いが彼らを根底から変えました。

実にキリストは甦られました。だからこうしていつも私たちと共にいて内住して下さり「恐れることはない、ただ信じなさい。」と語って下さるのです。今、私は自信をもって宣言できます。主は生きておられます。死んだままではこんな事は起こりません。主が甦り今生きていて下さるから、聖霊の働きの中、御言葉を通して私たちはこの方と出会うのです。

そして最後に。主イエスの復活は初穂であって、それは私たちの復活の約束です。主が再び来られる時、終わりのラツパの響きと共にまたたく間に一瞬にして変えられるのです(一五・五二)。「死は勝利に吞まれてしまった。死よ、お前の勝利はどこにあるのか。死よ、おまえの強い宣言でしようか。」

「人事を尽くして天命を待つ。」

ことわざはそう教えます。しかし私たちはその逆です。天命は勝利。主にあつては全ての労苦は無駄になることはありません(一五・五八)。だから人事を尽くせるのです。復活の主と共にここから出発しましょう。

証 言 「アシラム参加の恵み」

日本ホーリネス

池の上教会員

神向寺 益江

第47回城北アシラムを終えて―私は元来、人との付き合いが苦手な性格でしたが、教会で聖書のみことばに触れるうちに、自分の罪をより明確に示されるようになり、なんとか神様にきれいにしたい、ききたいと願っていたところ、7年ほど前に受洗の恵みに与えることができました。

ただ、受洗をしたからと言って、このような自分の性格の悪いところがらりと変わるわけでもありません。教会で「我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく我らの罪をもゆるしたまえ」と主の祈りを捧げても、口先だけの祈りになっている気がして心の中にすっきりとしないものが残っていました。聖書に書かれているみことばと自分の言行を一致

させるにはどうしたらよいか、具
体的なイメージをつかむことができ
ませんでした。

そこで、今回のアシュラムでは、
私のニードとして「みことばと言行
が一致するものと」させていただき
たいので、その助け手やヒントを与
えていただきたい」という思いを持
って参加いたしました。

山口紀子師による福音の時では、「
実によみがえられたキリスト」
がテーマとなつての学びとなりました。
そのなかで、イエス様は実際に
今現在も私のうちに生きて働いてお
られ、全面的にバックアップをして
くださっているのだということを知
り、自分の嫌だった弱さや頑なさ
そのままやさしく包み込まれている
ような気持ちになりました。安心し
て勇気をもつて自分の課題に取り組
みたいと思えるようになりました。

今にして思うと、私が元来持っ
ていた人付き合いの苦手な性格は、
自分に起こる諸問題を自分の力で解
決しようとする自己中心的な考え、
罪そのものに由来するものだったと
いう気がしています。

今回のアシュラムでは、みこと
ばと言行の一致は、自ら問題を解決
しようとする力むことではなく、イエス
様に信頼してゆだね、日々与えてい
ただける課題を神様のみこころにか
なうように精一杯こなすことだとい

うことを学びました。

現在、教会において、私には余
りある大きな役を任せていただいて
おります。私のいたらないところを
いつもフォローしてくださる兄弟姉
妹がいらっしやいます。教えられる
ことが多く感謝の気持ちでいっぱい
です。なにより、このような者にも
お役を与えてくださる神様に心から
感謝申し上げます。

日々私は変えられつつありま
す。自分の頑なさが柔らかくされて
きたような気も致します。アブラハ
ムの信仰の成長は75歳から始まった
と聞きました。信仰の成長は始まる
のに遅いことはないのだそうです。
今後、私もみことばを実行する
者の一人としていただけられるよう
に、主に従いつつ歩んでいけたらと考
えております。

すべてのことを主に感謝いたし
ます。

第47回城北アシュラムに参加 して

新宿西教会 川村 秀夫

去る2月11日(祝日)新宿西教
会第47回城北アシュラムが開催
された。本年度の主題は「実によみ
がえられたキリスト」で第1コリン
ト15章20節から引用しました。(し



オリエンテーションは池ノ上
キリスト教会の石井寛兄が担当さ
れ手短く本日の流れとそれぞれの
時の意義を説明され心の準備が出
来、感謝でした。

アシュラムは開心に始まり充
満で締めくくると言われています。こ
の大事な開心の時を天門教会の貴
村かたる師が担当されました。貴村
かたる師から助言を頂きながら各
自がこころの扉を開き、皆さんに祈
ってもらいたいニードを次々と発
表しました。

第1回目の細胞の時は自己紹介
と各自のニードを発表し互いに理
解を深めました。

参加者全員の集合写真撮影後、
楽しみにしていた昼食と交わりの
時間に入りました。婦人会の方々が
精魂込めて作られた豚汁は大変好
評で、御代わりが相次ぎました。ま
たお弁当は山崎製パン直営のサン
デリカの特製サービス弁当で大変
美味しく頂くことが出来ました。

午後の静聴の時は新宿西教会の
杉本和生師が担当され、ロマ書12章
を静聴しました。大変に中身の濃い
箇所でした。「なぜその箇所が心に
響いたか、「どのような感動が与え
られたのか、「どのような恵みが与
えられたのか」を自分の言葉で受け
た恵みを発表して頂き、共に感動を
分かち合いました。

かし事実、キリストは眠っている者
の初穂として、死人の中からよみが
えったのである。」

参加者は45名与えられました。
新宿西教会からは17名参加し、受
付、案内、接待、会計等大会の運営
を担って頂きましたが、外部からも
多くの支援を頂き円滑な運営が出
来たことは大変に感謝でした。

献金の後、福音の時を持ちました。更生教会の山口紀子師が過密スケジュールの合間を縫って担当された。第1コリント15章1〜11節及び15〜58節から説教をなさいました。心に響く言葉ばかりでした。説教を聞きながら、思いました。「生きてこの世で働いている私たちは気付かないうちに多の罪を犯すものですが、罪を悔い改め、主を仰ぎ顧みる時、その罪は許され福音の恵みにあずかることが出来る。

・・・そして「死にも勝利している」。だから主のために全力で働こうと思いました。

2回目の細胞の時は夫々が今までに受けた恵みの中から、自分のニードとかみ合った部分を互いに分かち合いました。恵まれた時間でした。

充滿の時は横山義孝師の導きのもと、全員が輪になって今日受けた恵みを全員で分かち合いました。今日各自が持ち込んだニードに対して答えを得られた人も多かったのではないかと思いました。そしてそれぞれの生活の中で今日の恵みを他の人に伝えようと強く思いました。

第22回東京新生教会

アシュラム報告

横山 勝よ



当教会第二十二回アシュラムは2016年10月17(土) 15時〜19(日) 15時まで。立証者に浦和別所教会の春名至兄を迎えて実施されました。第1日、①「開心の時」午後3〜4時は指導・横山義孝師・参加者13名でもたれ、それぞれが自らの魂の深みにあるニードを語りあい、②続いて4〜5・30 P mは三つに分かれて

のグループの祈り(1)にはいりませんでした。ここでは更に具体的な祈りの課題を相互に分かち合い右隣の人のために祈りました。③この後夜9時より翌朝8時まで各自の家で、予め決めてあった時間帯に連鎖祈禱の時を持ちました。第2日朝9・45〜10・20 A mまで④「静聴の時」が司会・森浩師により持たれました。参加者20名。続いて⑤主日礼拝・立証・春名至兄・メッセージ・横山義孝「御前に心を注ぎ出せ」(テキスト詩62・6〜13)出席24名で讚美と、御言葉の恵みの時があたえられました。春名至兄の浦和別所教会はもともと東京新生教会とは姉妹教会であり、アシュラムにおいても同教会と交わりを豊かにすることが出来感謝でした。⑥続いて昼食親睦の時⑦グループの祈り(2)ここではそれぞれの伝道の課題についてニードをあげ、相互のために祈りました。⑧「充滿の時」最後の充滿の時は昨日午後、ニードの分かち合いで始められた今回のアシュラムにおいて、そのニードに対して主が与えて下さった、恵み、悔い改め、信仰、希望、新たな決意などを分かち合い「イエスは主である」(1コリント12・3)と三本指で声を合わせて唱え感謝を持って終了しました。

アシュラム予告

●第54回関東アシュラム

とき 16年9月19(月)〜21(水)
会場 山崎製パン箱根山荘
助言者 内村撒母耳師
(アッセンブリー名古屋 神召教会牧師)

●第51回九州アシュラム

とき 16年9月18(日)〜19(月)
ところ 福岡黙想の家
助言者 安藤脩師
(横浜岡村教会牧師)

●「信仰の目で読み解く絵画V」

岡山敦彦著 一五〇〇円
問い合わせは、大分恵みキリスト教会岡山師へ097-522-2768



〒一八一〇〇一 三鷹市井口3-15-6
池の上キリスト教会内
日本クリスチャン・アシュラム連盟
振替口座 東京〇〇一〇〇一四五五八